

PROJECT



MIYAZAKI DESIGN

伴走支援プログラム 公募要項

「灯火の国、宮崎」から広げるデザイン経営

2025/07/28（月）

デザインの力で会社の未来を照らす

PROJECT アラカシ 第2期参加事業者を募集

自社ならではの強みを活かし、新しい商品やサービスを開発する。

県内外のお客様に事業の価値を拡げる。

地域や従業員から選ばれる会社を作る。

会社の軸を見直し、経営のあり方を刷新する。

そんな会社の未来をつくるための挑戦に踏み出そうとしている宮崎県内事業者が集まり、切磋琢磨し合いながら、一歩を踏み出すためのPROJECT アラカシの第2期がスタートします。

PROJECT アラカシは、デザインの力を活用したお客様、地域、そして従業員から選ばれる会社づくりをサポートするプログラム。同じ志を持つ仲間たちと切磋琢磨し、新しいアイデアを形にするワークショップや、経験豊富な企業家やデザイナーが1社1社の想いに寄り添いながらイノベーションやブランディングの課題解決をサポートする伴走支援プログラムを通して、会社の未来づくりをサポートします。

参加資格は、熱意。周囲を巻き込み、真剣に、本気で挑戦する。そんな熱意にあふれる10社を募集します。

一社一社の本気の挑戦が、会社の未来を、宮崎の未来を照らす力になります。

さあ、「灯火の国、宮崎」から、デザイン経営の輪を拡げていきましょう。

デザイン経営とは

社会課題の複雑化、新しい技術の登場、国内の市場や労働力の縮小、そして人々の価値観や行動の変容など、企業を取り巻く環境は大きく変化しています。

「デザイン経営」は、こうした変化の荒波を前向きに乗り越えるために、企業のブランド力やイノベーション力を向上させる経営手法です。

こんな課題に「デザイン経営」がおすすめ

- 従業員や求職者から共感を得られるような組織づくりに取り組みたい
- 事業の見直しや新たな領域にチャレンジするために組織力を強化したい
- 5年後、10年後を見据え持続的な成長を実現する取り組みを検討したい
- 変化の激しい社会の中で自社の在り方を再検討したい

より詳しくデザイン経営について知りたい人へ～デザイン経営に関する過去の関連資料



経済産業省・特許庁 『「デザイン経営」宣言』

<https://www.jpo.go.jp/resource/s/shingikai/kenkyukai/kyousou-design/document/index/01houkokusho.pdf>



特許庁 「デザイン経営コンパス」

https://www.jpo.go.jp/introduction/soshiki/design_keiei/compass.html



特許庁 『中小企業のためのデザイン経営ハンドブック みんなのデザイン経営』

https://www.jpo.go.jp/introduction/soshiki/design_keiei/chusho.html



特許庁 『中小企業のためのデザイン経営ハンドブック2 未来をひらくデザイン経営×知財』

https://www.jpo.go.jp/introduction/soshiki/design_keiei/chusho_2.html



九州Design Case Studies (デザイン経営事例集)

https://www.kyushu.meti.go.jp/seisaku/ryutsu/design/design_case_studies.html



PROJECT アラカシの全体像

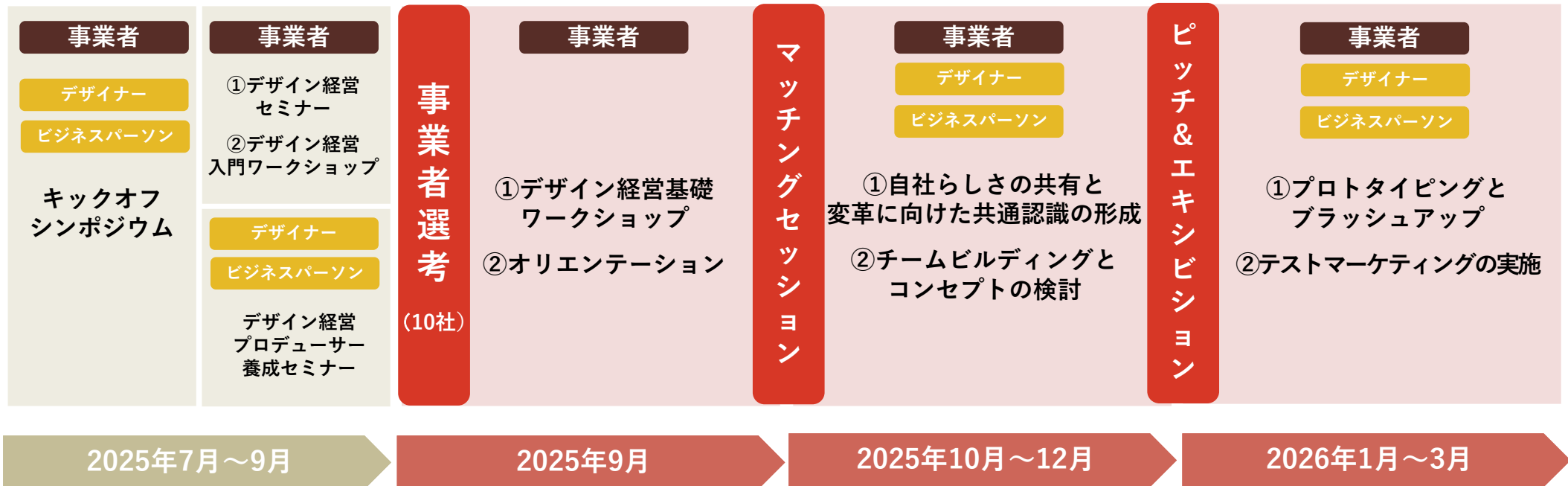
デザイン経営伴走支援プログラム

イベント

基礎ワークショップ

人格形成・文化醸成フェーズ

価値創造フェーズ



伴走支援プログラム 概要

プログラムへの参加を検討される皆さんへ

PROJECT アラカシ
事業アドバイザー



村岡 浩司
株式会社一平ホールディングス
代表取締役

(センス) = (圧倒的な経験値) × (論理的な思考 + ひらめき・直感力)

これは、私が考えるセンスが良いと思える人（企業）の思考の方程式です。

企業にとって、過去に成長の原動力となった成功体験は、それ自体に囚われることでいつの間にかイノベーション力を削ぐ要因になっていることもあるし、経営者のひらめきだけに頼るのは（よほどの天才でない限り）危険なこと。つまり、センスとは、圧倒的な経験値をベースとしながらも、常に学びの姿勢を持って積み上げた論理的思考の上に検証を重ねたアイデア（ひらめき）に対して、圧倒的な信頼と自信を持って行動できる”チーム力”そのものではないかと思うわけです。

デザイン経営とは何か、と問われると、常に押し寄せてくる様々な経営判断に対して、自信を持って結果を出していくための「センスを磨く行為と実行」、そのものに思えてなりません。

時には（圧倒的な経験値）を持ったプロのデザイナーと組んで、美しい斬新なパッケージが生まれる。また、（論理的思考）をサポートしてもらうアドバイザー・伴走者にマーケティングの助言をもらうこともあります。しかし、いずれにせよ最後にはリーダー自身の判断が最も大切なことは疑いようもなく、自信を持ってチームがプロジェクトを推進できる状態であるためには、常に最良の「判断」を下していかなければならないのですから、そのための思考力を鍛える（学ぶ）ことは大切だと思うのです。

今回のMIYAZAKI DESIGN PROJECT「アラカシ」には、たくさんのヒントが詰まっています。同期生のつながりも、向上心を持って切磋琢磨できる仲間＝一生の財産になると信じています。

ぜひともに学び、宮崎から世界へ羽ばたくような、新しい価値を生み出していきましょう！

プログラムへの参加を検討される皆さんへ

PROJECT アラカシ
事業プロデューサー



澤田 哲也

ミテモ株式会社 代表取締役

私たちは今、大きな変化の時代にいます。

大量に生産され、消費されるものではなく、限られた資源を大切にできるものがある。本当に大事なものが身のまわりにあって欲しい。できることなら未来の世代にとっても良い消費がしたい。パンデミックを経て、私たちの価値観はさらに大きく変わりました。

働き方に対する価値観も変化しています。人生100年時代、一社で勤め上げるのではなく、自分の価値観や強みを活かして同時に複数の会社で働くこともできるようになりました。お金のためだけに働くのではなく、自分も周りも幸せになれる会社で働きたいという思いが広がっています。

変化しているのは、価値観だけではありません。世界情勢の不安定さやインフレの影響は、地域の会社や働く人々にも及んでいます。この変化にどう対応していけばいいのでしょうか。

私たちはデザインの力がこの変化に立ち向かう助けになると信じています。特に宮崎のように自然、歴史、文化資源そして人の魅力に溢れる地域には、新しい意味的価値を生み出す大きな可能性があります。そしてデザインは、その可能性を花開かせるための力になります。

PROJECT アラカシは、デザインの力で皆さんの強みや想い、地域との文脈に躍動感を吹き込み、お客様、地域、従業員など関わる人々に愛され、選ばれる商品やサービスそして会社づくりを伴走支援するプロジェクト。ここでいうデザインとは、単に形あるものを美しくすることだけではなく、経営の軸を確かなものにし、商品・サービスや会社の意味を明確にし、共感の輪を広げる営み全体をデザインすることを目指します。

参加資格は、熱意。全国各地で蓄積されている知見やネットワークを宮崎の地に接続し、真剣に、本気で挑戦する県内事業者の皆さんとともに、会社の未来と宮崎の未来を照らす事業やプロジェクトを生み出していきたいと考えています。

前例も、正解もないPROJECT アラカシ 第2期。

だからこそ目いっぱい、一緒に挑戦しましょう！皆さんのご応募をお待ちしています。



伴走支援プログラムの目指す姿

思い描いたビジョンやありたい姿に向けて、
デザイン経営の推進やさらなる事業成長につながる取り組みを
プログラム終了後も自走・継続できる状態

参加することで得られるもの

デザイン経営
実践方法の学習

デザイナーによる
制作物の提供

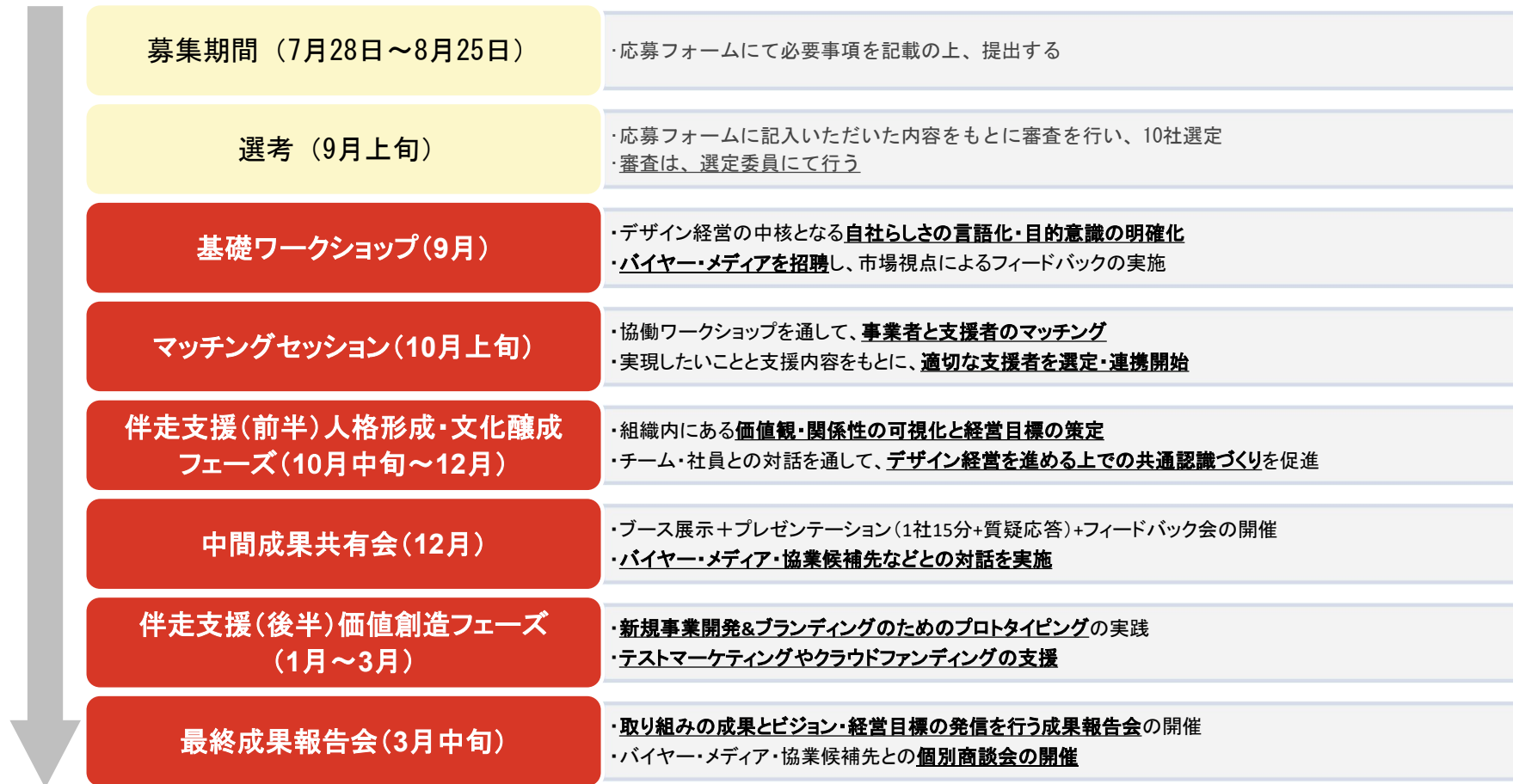
会社の軸の
見直し機会

切磋琢磨する仲間
協働するパートナー
とのつながり

中期経営計画
の策定支援・
ブラッシュアップ

テスト
マーケティング
への後押し

伴走支援プログラムの全体像



STEP 1 基礎ワークショップ実施（9月）

募集期間（7月28日～8月25日）

選考（9月上旬）

基礎ワークショップ（9月）

マッチングセッション（10月上旬）

伴走支援（前半）人格形成・文化醸成フェーズ（10月中旬～12月）

中間成果共有会（12月）

伴走支援（後半）価値創造フェーズ（1月～3月）

最終成果報告会（3月中旬）

■WS1 2025年9月18日 13:00 – 17:00 @ 若草HUTTE（宮崎市）
自社らしさと参加動機の明確化

参加事業者チーム間でお互いに現場視察とフィードバック

■WS2 2025年9月24日 13:00 – 17:00 @ 若草HUTTE（宮崎市）
バイヤー・メディア視点による価値の再定義

■WS3 2025年9月29日 13:00 – 17:00 @ 若草HUTTE（宮崎市）
目指す姿と必要な支援の明確化

STEP 2 マッチングセッション（10月）

募集期間（7月28日～8月25日）

選考（9月上旬）

基礎ワークショップ（9月）

マッチングセッション（10月上旬）

伴走支援（前半）人格形成・文化醸成フェーズ（10月中旬～12月）

中間成果共有会（12月）

伴走支援（後半）価値創造フェーズ（1月～3月）

最終成果報告会（3月中旬）

参加事業者と県内のデザインプロデューサーとのマッチングを目指したマッチングセッション。参加事業者は基礎ワークショップを経て、確立した自社らしさを元にピッチを行い、仲間集めを行う第一歩とする一方で、県内中小企業の多くがデザイナーとのネットワークが乏しく、「県内の誰に相談すればよいかわからない」「その人が本当に支援できるのか判断できない」といった声が多く寄せられていることを鑑み、多様なデザインプロデューサーとの意見交換の機会も積極的に設け、ネットワーク構築を図ります。

【開催概要】

開催日：

2025年10月上旬の平日 13:00～16:30

会場：宮崎県内

想定来場者：参加事業者、デザイナー

コンテンツ概要：課題解決ワーク etc

「課題解決ブレスト」

テーマ例：

「●●社の“もったいない”をどう活かすか？」

「共創ポジショニングマップ」

テーマ例：

「●●社の“強み”と“機会”をマップにしてみよう」

STEP 3 デザインアクションの伴走支援（10月-3月）

デザインアクションの実施イメージ

新商品・新サービス開発、既存商品のブランディング、販路拡大に向けたツール開発、
インナーブランディング、地域ブランディング など

伴走支援例

（月次支援）

- 伴走支援コーディネーターによる進捗支援
- 進捗共有会の開催
- 参加企業同士による相互フィードバック など

（必要に応じて）

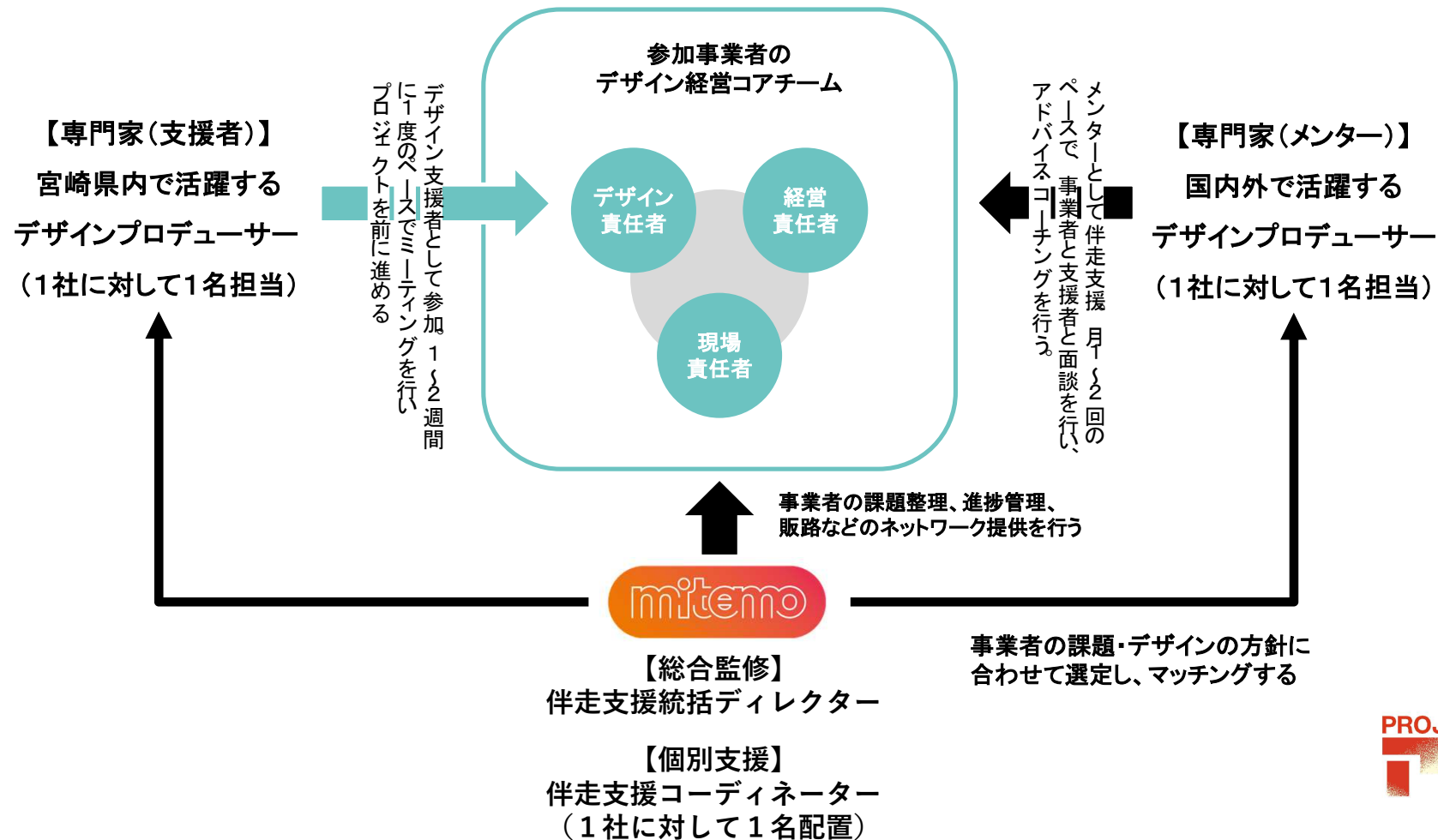
- 会社の軸ブラッシュアップ
- 数値目標のブラッシュアップ
- クラウドファンディング支援 など

デザイン支援例

各社のデザインアクションの実施内容に応じて、専門家をマッチングし、デザイン支援を行います。

- コピーライティング
- プロダクトデザイン
- パッケージデザイン
- POP、販促資料開発支援
- 動画作成支援
- WEBデザイン など

STEP 3 デザインアクションの伴走支援（10月-3月）



伴走支援（前半）：人格形成・文化醸成フェーズ（10月中旬～12月）

募集期間（7月28日～8月25日）

選考（9月上旬）

基礎ワークショップ（9月）

マッチングセッション（10月上旬）

伴走支援（前半）人格形成・文化醸成フェーズ（10月中旬～12月）

中間成果共有会（12月）

伴走支援（後半）価値創造フェーズ（1月～3月）

最終成果報告会（3月中旬）

中小企業において新商品開発やブランディングに取り組もうとする際、多くの企業が直面するのが「経営者と従業員の意識差・温度差」。そこで、本伴走支援プログラムでは、前半フェーズにおいて社内の関係者を巻き込むことを重視し、次のようなアプローチを取ります。

自社らしさの共有と変革に向けた共通認識の形成

デザイン経営の中核となる「自社らしさ」について経営者と従業員と支援者が共に認識を深める機会を設定。新商品開発・ブランディングに取り組む意義や、目指す姿についての合意形成を図り、社内の温度差を解消します。

チームビルディングとコンセプト検討

上記の土台をもとに、社内でプロジェクトチームを形成。新商品または既存商品のリブランディングに向けたコンセプト設計を行います。この際、以下の問いを中心に議論を重ねます：

「私たちが提供したい商品・サービスの顧客は誰か？」

「その顧客が求めている価値は何か？」

「それに対して、私たちはどのような価値を提供できるのか？」

中間成果共有会（12月）

募集期間（7月28日～8月25日）

選考（9月上旬）

基礎ワークショップ（9月）

マッチングセッション（10月上旬）

伴走支援（前半）人格形成・文化醸成フェーズ（10月中旬～12月）

中間成果共有会（12月）

伴走支援（後半）価値創造フェーズ（1月～3月）

最終成果報告会（3月中旬）

プログラム参加事業者10社がデザイン経営の取り組みを通じて磨き上げてきた「自社らしさ」や「価値提案」を発信する中間成果の発表の場を「中間成果共有会」として開催。単なる中間報告の場ではなく、既存顧客・協力会社・バイヤー・メディア関係者など、今後のビジネスにおけるキーパーソンを招き、対話を通じて「これからの共創」を構想する場として開催します。

【開催概要】

開催日：2025年12月の平日 13:00～20:00

会場：MOC

想定来場者：支援者、バイヤー、デザイナー、メディア、地域プレイヤー、学生、一般市民等

想定参加者数：80名

形式：ブース展示、プレゼンテーション、バイヤー・メディア・協業候補先などとの対話ブース

伴走支援（後半）：価値創造フェーズ（1月～3月）

募集期間（7月28日～8月25日）

選考（9月上旬）

基礎ワークショップ（9月）

マッチングセッション（10月上旬）

伴走支援（前半）人格形成・文化醸成フェーズ（10月中旬～12月）

中間成果共有会（12月）

伴走支援（後半）価値創造フェーズ（1月～3月）

最終成果報告会（3月中旬）

後半フェーズでは、最終成果報告会での社会への発信と関係構築に繋げるため、プロトタイピングの実践など次のようなアプローチを取ります。

プロトタイピングとブラッシュアップ

前半で設計したコンセプトをもとに、商品開発・ブランディングの具体化に着手。仮説の磨き上げ、パッケージデザインの検討、プロトタイプ制作などを通じて、ブランド価値の実体化を図る。

テストマーケティングの実施

制作した試作品を用い、ターゲット市場における反応を確認するテストマーケティングを行う。仮説の検証と改善を繰り返し、実用レベルに高める。

資金調達支援

商品化・販路開拓にあたり資金が必要な事業者に対しては、クラウドファンディング等の資金調達手法の活用を支援する。

主な支援候補者プロフィール

PROJECT アラカシ
事業アドバイザー



村岡 浩司
株式会社一平ホールディングス
代表取締役

1970年、宮崎県生まれ。人口12,000人のまち、宮崎市高岡町で廃校となった小学校をリノベーションし、カフェやシェアオフィス・コワーキングを併設するMUKASA-HUBを運営。“世界があこがれる九州をつくる”を経営理念として、九州産の農業素材で作られた「九州パンケーキミックス」をはじめとする商品開発の他、カフェ・飲食店を国内外に展開。食を通じた地域活性化やコミュニティ創生にも取り組んでいる。

九州/沖縄の広域経済圏で繋がってものづくり産業を支援する、共創・共同体マーケティング「九州アイランドプロジェクト」の運営リーダー。その他、様々な地元創生活動や食を通じたコミュニティ活動にも取り組んでいる。

PROJECT アラカシ
事業プロデューサー



澤田 哲也
ミテモ株式会社 代表取締役

1981年、大阪府生まれ。採用コンサルティング会社、人材育成・組織コンサルティング会社を経て、2012年よりデザインと教育を組み合わせながら、企業と地域の課題を解決することを目指すミテモ株式会社 代表取締役。

日本各地の地域経済と社会を支える地域企業の育成型伴走支援をテーマに活動を展開。地域企業を対象としたデザイン経営、ブランド開発支援、新規事業開発、海外進出支援などに取り組む。

日本の工芸の価値を国内外に発信する作り手と支援者が学び合う民間スクールJAPAN BRAND PRODUCE SCHOOL、地域に根ざした作り手と使い手（生活者）の新たな関わりづくりを目指すオンラインクラフトマーケット Local Craft Market、インバウンドを対象としたクラフトツーリズム事業LOCAL CRAFT JAPANなど、工芸に関する複数プロデュース。デザインと教育の力で、工芸の高付加価値化と文化の継承に取り組む。

経済産業省・中小企業庁主催 令和元年度 中小企業向けデザイン経営導入支援事業「ふるさとデザインアカデミー」の教育ディレクター、名古屋市 中小企業向けデザイン経営導入支援事業「FUXION」事業プロデューサー、特許庁 令和5年度 中小企業のデザイン経営推進プロジェクト、名古屋市伝統産業海外マーケティング支援事業 Creation as DIALOGUEの事業プロデュース・ディレクションなど、実績多数。

PROJECT
アラカシ
MIYAZAKI DESIGN

デザイン経営推進事業

伴走支援プログラム 募集要領

募集要領

■参加条件

- ・宮崎県内に事業所を有する事業者
- ・食品やものづくりに関連する事業を展開する事業者
- ・伴走支援プログラムに最後まで取り組み、次年度以降の自走を目指す事業者であること

■定員

10社

* 審査要領に基づき審査を行い、10社選定します

■参加費用

無料

- * 伴走支援における専門家（デザイナー）によるデザイン費用は原則発生しません
- * デザインアクションにおける商品開発やパッケージ開発などにかかる経費（試作費、資材費、外注加工費、輸送費、旅費など）は参加事業者の負担となります

（例）

食品：6次産業化に取り組む農林水産事業者、食品加工事業者、飲食サービス事業者等
ものづくり：伝統工芸事業者、金属や木材などの加工事業者等
※上記事業を今後展開予定の事業者も応募可能とする

募集要領

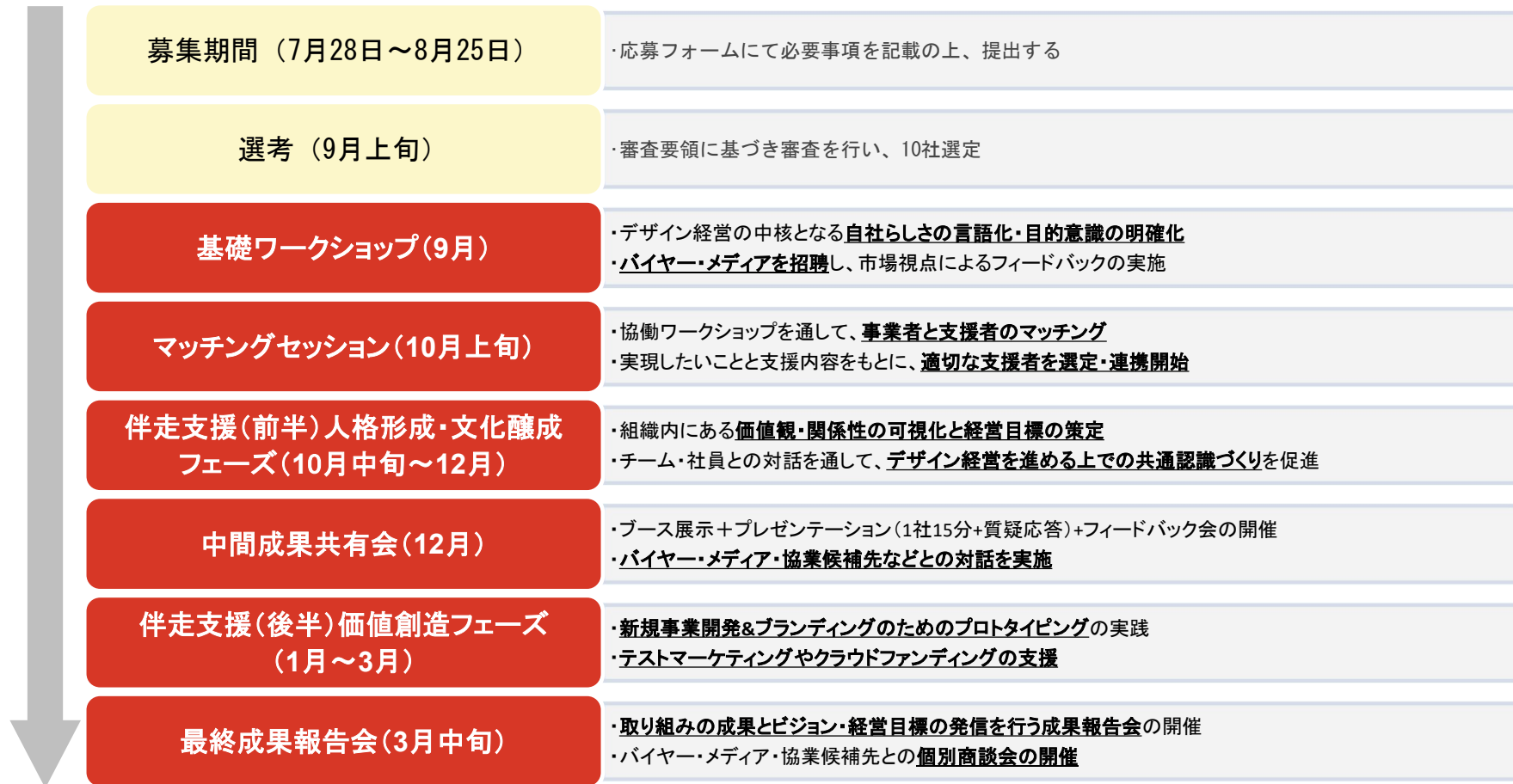
■こんな方にオススメ

- 従業員や求職者から共感・支持を得られるような組織づくりに取り組みたい
- 新規事業開発、商品開発に取り組みたい
- 県内外に販路を拡大し、事業を成長させたい
- 会社の軸や経営のあり方を見直したい など

■求めるスタンス

- デザイナー、流通・販売パートナー、従業員、取引先、地域の関係者などの他者を積極的に巻き込み、真剣に本気で事業開発に取り組む
- ✕ デザイナーが商品アイデアを考えてくれる／販売方法を考えてくれる／発信してくれる

伴走支援プログラムの全体像



審査基準（評価項目）

応募いただいた情報をもとに、以下の5つの観点で有識者が審査を行い、伴走支援先を選出します。

① 事業者の意志・意欲

- ・本事業を通して、宮崎県や地域を牽引する事業を生み出そうとする意志や意欲が伝わるか
- ・将来の目標や明確なビジョンを持っているか

② 課題認識の適切さ

- ・解決しようとしている会社の課題が本事業及びデザイン経営の主旨にふさわしいか
- ・単発的なデザイン活用を目的としたものになっていないか

③ 経営資源や強みのユニークさと活用可能性

- ・自社固有の強み（技術・ネットワーク・人材など）が明確か
- ・地域資源・文化・伝統などを活かす発想があるか
- ・それらの資源を新たな価値創出に活かそうとする姿勢があるか

④ 実現可能性

- ・自走可能な社内体制や協力体制を構築できそうか
- ・取り組もうとしている事業や商品・サービスは、生活者や社会の共感を得られるような物語を有しうるか

⑤ モデル性

- ・宮崎県のデザイン経営の事例としてふさわしいか
- ・宮崎県内（あるいは自地域）に外貨や人の流れを呼び込むものであるか

審査方法

(1) 応募要件について、応募用紙に基づき各項目の該非を事務局で審査し、全ての項目を満たす場合は評価項目の審査に進める。

【応募要件】

- ① 宮崎県内に事業所を有する事業者
 - ② 食品やものづくりに関連する事業を展開する事業者
- ※上記事業を展開予定の事業者も含む
- ③ 伴走支援プログラムに最後まで取り組み、次年度以降の自走を目指す事業者

(2) 評価項目について、応募用紙に基づき項目毎に各審査員が、以下の基準により5段階で採点する。

段階	5	4	3	2	1
評価	標準より 非常に優れている	標準より 優れている	標準である	標準より やや劣る	標準より 劣る

(3) 全ての審査員の点数を集計し、合計点数の高い順から伴走支援プログラムに参加する事業者を10社選定する。

なお、選定ラインにおいて合計点数が同点となり順位が決定しない場合は、県と審査員の協議により決定する。

応募方法

■公募期間

2025年7月28日（月）～8月25日（月）

* 審査後、9月上旬頃にメールにて結果通知予定

■応募方法

応募フォームより必要事項を記入

A. PROJECT アラカシのイベントに初めてお申し込みの方：

https://miyazaki-alaquash2025-lightning.leaf-hrm.jp/open_seminars

B. 2回目以降のお申し込みの方：

<https://miyazaki-alaquash2025-lightning.leaf-hrm.jp/>

* 応募フォーム送信後、事務局まで電話連絡をお願いいたします

■補足資料送付先・問い合わせ先

事務局：ミテモ株式会社 PROJECTアラカシ運営事務局（中村・梅田・羽田野）

メール：cue@mitemo.co.jp

電話：03-4572-0407

主催：宮崎県企業振興課

A. 初めての申込み



B. 2回目以降



イベント申込時に登録したID・パスワードでログインください

